

Topic 1 リレーの形にこだわらずに走る姿から、ルールのあるリレーの楽しさへの気付き

①近隣の小学校の5、6年生のリレーを見学した。バトンの受け渡し練習の場面を見て憧れの気持ちをもった。保育者は、見学に行く前に事前に園庭にトラックの線を描いておいた。園に戻ると、小学生を真似て何周も楽しそうにトラックを走り、近くにいた友達にバトンを渡すことを楽しんだ。



②翌日、2人組のチームを作り、リレーを始める。保育者が1人で何周走るとか尋ねると「1人5周!」と答えるが、子どもたちは何周も走り続ける。頃合いを見て、2人で何周走るとか尋ねると「10周!」と答えるが、数える人がいないので、また何周も楽しそうに走る。2人で10周を超えて走ったところで「走る時間が長いよ〜!」と1人が気付いた。

何周走ったのか
分らなくなるね。
どうしたらいい?

POINT

まずは、やってみたい、面白そう、
という思いを大切に（主体的）

POINT

走ってみて、必要なルールに気付き、
話し合ってルールを決めていくことで、
遊びが面白くなる。（対話的で深い学び）

何周走ったのか
数えるのは次に
走る人にしよう

③保育者は、困りを解決するための考えを共有できるように仲立ちをした。次は「1人10周」と子どもたちで決めて始めるが、疲れてしまい10周走り切る前に次の人と交代する子も…。また、「2人チームで10周は多い」「8か6がいい」と意見が分かれてしまった。その後の話し合いで「2人チームで6周」に落ち着き、数える人も決めることになった。

●研究アドバイザーから 藤女子大学 人間生活学部 子ども教育学科 教授 大室 道夫 氏

リレーが成立するにはルールや役割など子どもたちが考える要素がたくさんあります。小学校との交流で幼児が抱いた5、6年生への憧れの気持ちがリレーへの意欲を喚起し、適度な周回数や数える人の存在への気付きが生まれ、周回数やチーム分けなどを相談しながら納得して遊びを進めていました。これは、主体的・対話的な学びです。そして実体験の中で数を体感し、必要なルールを獲得する姿がありました。これは深い学びです。深い学びとは、小学校生活科だと「気付きの質を高める」ことです。例えば、前の事柄と現在とを比較する中で生まれるものです。このような幼児期の学びが小学校教育へとつながっていくと考えます。

子どもが自ら学ぶようになるには、幼児期に「やってみたい」という意欲をもち、繰り返し取り組むことが大切です。これが諦めない粘り強さにつながり、小学校以降で難しいことに対面した時に問題を解決しようとする姿や力となるのではないのでしょうか。



Topic 2 遊び中の学びとは 育みたい資質・能力から考える

年中児が年長児に誘われて氷鬼をして遊んだ。その後、教えてもらったことをクラスの友達や年少児に伝えながら遊びを再現していた。次第に自分たちで鬼決めをしたり、より遊びを楽しむためにルールを考えたりしながら鬼ごっこを楽しむ姿が見られるようになった。

小学校以降

知識及び技能／思考力・判断力・表現力等／学びに向かう力・人間性等

幼児教育において育みたい資質・能力

POINT

自分たちで遊びを進めていると
感じられるような保育者の働きかけ

POINT

子ども同士で伝え合おうと
している姿を大切にする

POINT

自分たちで考えて解決していくプロセスを
大切にする

鬼ごっこの場面から見取った幼児教育において育みたい資質・能力～

知識及び技能の基礎

思考力・判断力・表現力等の基礎

学びに向かう力・人間性等

教えてもらったことの振り返り

ルールの伝え合い

鬼決めをする
から足出して！

鬼は誰？

年長さんは
こうしていたよ

年長さんの真似
しているな。
再現している姿を
大切にしよう

知っていることを伝えられる自信

ルールなどの必要な言葉の理解

捕まったら
凍ってね

助けてあげるよ。
タッチ！

逃げる、追う、止まるなどの身体感覚の育成

教えてもらったことの振り返り

この場所にいたら
助けられなくなるね

鬼はここに入って
いいの？

この場所は、なしに
しようよ。どうかな？

話し合い、目的の共有

学びをつなげる

主体的、対話的で深い学び

わかったこと

- 遊びの中で育まれている育ちを見取することで、今後身に付けてほしい力は何か、そのためにはどのような援助が必要なのかが見らくなる。幼児期に育みたい資質・能力の3つの柱から一つ一つの遊びの中で育まれている力を見取ると、幼児期の遊びが小学校以降の生活や学習の基盤になっていることが分かる。

- 幼児は、体験を通して初めて実感を伴って理解・納得することがある。保育者は、幼児が主体的に環境に関わる遊びの中に願いや見通しをもち、保育を計画する。話し合いなどでは、状況に応じて仲立ちをすることで、子どもは新たな考えに気付いたり、納得したりしながら遊びを進めるようになり、それは深い学びとなる。